

「チャレンジ精神」

新年度が始まり一月が経とうとしています。本校の子どもたちは、新しい環境にもだいぶ慣れてきたようで中休みや昼休みには、運動場でドッジボールをしている子やバスケットボールをしている子、ドロケイなどの鬼ごっこをしている子など、たくさんの子どもが思い思いに体を動かして遊び、休み時間が終わるころには顔を真っ赤にして教室に戻って行きます。また、校舎内に目を向けますと教室で友達と折り紙を楽しんでいる子や友達との会話を楽しんでいる子、読書を楽しんでいる子もおりまして、それぞれが休み時間を上手に過ごし、楽しんでいる様子が見えます。

さて、最初の朝会の校長講話の中で、私自身の経験を織り交ぜながら「チャレンジすることの大切さ」を子どもたちにメッセージとして送りました。テレビ放送での朝会でありましたので、ヘルメットを実際に紹介しながら話をしました。



左の写真が、校長講話の中で子どもたちに紹介し、期間限定で校長室に飾っていますアメリカンフットボールのヘルメットです。

このヘルメットには、大学生時代の良い思い出も辛い思い出も、成功体験も失敗体験もたくさん詰まっています。

このスポーツと出会ったのは、私が小学生の時です。私が住んでいた地域には、大学の総合グラウンドがあり、小学生のころから大学生がアメリカンフットボールの練習に取り組んでいる姿をよく見ていました。小学校6年生になる頃には、本場のアメリカンフットボールがテレビで放映されるようになり、その魅力に一気に取り憑かれ、いつか自分も「チャレンジしたい」という気持ちを抱くようになりました。

しかし、中学校に進学しても高校に進学しても進学先にはこのスポーツにチャレンジできる環境はありませんでした。大学進学後、ようやくチャレンジする機会が恵まれ、迷わずアメリカンフットボール部に入部しました。小学校時代に抱いた「思い」をもち続けられたからこそ、チャレンジすることができたのだと思います。

子どもたちは、学校や様々な場所での学びをとおして学力を伸ばし、人とのかかわりの中で社会性を身に付けながら成長していきます。子どもたちが「思い」を抱き、「チャレンジ精神」をもつことは、成長過程の中でとても大切なことだと感じています。子どもたちが「思い」や「チャレンジ精神」を抱くことができるように子どもたちにたくさんの情報を発信し、そして、その「思い」や「チャレンジ精神」を叶えることができるように、子どもの健全な成長を願う大人としてかかわっていきたいと思います。